

下北地区統合校開設準備委員会（第1回）概要

日時：令和7年5月19日（月）

13:30～15:15

場所：むつ工業高校 生徒会館

＜出席者＞

○委員

伊藤 文一 委員、野呂 政幸 委員、平内 真一郎 委員、又村 彰 委員、
佐々木 一浩 委員、木村 努 委員、阿部 謙一 委員、山本 隆悦 委員、
高屋 龍一 委員、濱中 亮輔 委員、成田 真紀 委員、高松 笑子 委員

○オブザーバー

県立大湊高等学校

畑中 俊光 教頭、山田 一二美 事務長、軽部 和佳子 教務主任

県立むつ工業高等学校

坂下 哲也 教頭、麥澤 美穂 事務長、加藤 始 教務主任、坪 大輔 設備・エネルギー科主任

1 開会

2 辞令・委嘱状交付

■ 県教育委員会から各委員へ辞令又は委嘱状が交付された。

■ 委員から次のような意見があった。

○ 県教育委員会で検討している施設整備に関する選択肢を提示し、地域の声も参考にしながら協議を進めてほしい。仮にそれが叶わないのであれば、「地域にも丁寧に説明するように」と話している教育委員に対し、整備方針が定まり次第説明するとしている事務局の考えを説明し、それが適切かどうか判断してほしい。

3 設置要綱説明

■ 事務局が資料2により開設準備委員会設置要綱の概要について説明した。

4 委員長及び副委員長選出

■ 委員長に山本 隆悦委員、副委員長に伊藤 文一委員及び野呂 政幸委員が選出された。

5 事務局説明

（1）下北地区統合校に関する説明会

■ 事務局が下北地区統合校に関する説明会の概要について説明した。

■ 委員から次のような意見等があった。

○ 入札中止の理由が配置技術者の確保が困難であるということだが、入札実施を公告した時点で想定できていたのではないか。

→（事務局）これまで県立学校の建築工事では入札不調がなかったことから、入札者があるものと考えていた。

○ 入札中止によって、むつ工業高校の校舎を改修し、とりあえず開校すると見えるが、万が一、改修工事の入札も不調に終わった場合でも開校時期は変更しないのか。

→（事務局）入札中止となった段階で、同じ要件で入札を実施しても所要の手続があるため、令和9年4月の開校には工事の完成が間に合わないことは確実だったが、統合校を志望する生徒の進路選択の確保を第一に考え、予定どおり令和9年4月に開校したいという結論に至った。

その上で、入札中止となったことを踏まえ、より着実に施設整備を進められるよう、新たな改築計画を基に進めるか、改修を軸とした施設整備で進めるかを検討しているところ。

○ この開設準備委員会は、施設整備は別にして、令和9年4月に統合校を開校する上で、目指す人財像などを協議するものであるということか。

○ そのとおり。今いただいた施設整備に関する意見も県教育委員会に伝わっている。

○ 今の状況では、保護者などは不安に思っていると思う。統合校がどのような形になるかということをも早めに提示するためにも、施設整備の方向性について早めに決定してほしい。

（２）青森県立高等学校教育改革推進計画第２期実施計画

■ 事務局が資料３により第２期実施計画の概要について説明した。

（３）下北地区統合校の設置に向けた検討の進め方

（４）下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見のまとめ

（５）下北地区統合校検討委員会からの要望書

（６）学校関係団体、産業関係団体等との情報交換のまとめ

（７）これまでの要望・意見のまとめ

■ 事務局が資料４～８により検討の進め方、これまでの要望・意見について説明した。

■ 委員長から次のような発言があり、委員から了承された。

○ 下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見、下北地区統合校検討委員会からの要望、学校関係団体、産業関係団体等との情報交換会における意見を踏まえて協議する旨、また、開設準備委員会の意見により校名等を決定するのではなく、本委員会の意見を報告書として取りまとめ、それを基に県教育委員会

等において検討し、決定することとする。

6 学校紹介

■ 委員長が統合対象校の校長である伊藤副委員長及び野呂副委員長に対し、それぞれの学校の状況について説明を求めた。

○大湊高校（伊藤副委員長）

学校案内の表紙には、「日本で一番悩める学校」という言葉が躍っているが、「悩める」というのは「悩むことができる」という意味の「悩める」である。つまり、「大湊高校で進路やこれからの将来について、一番悩むことができますよ」というキャッチフレーズである。

校長のメッセージには、本校の特色を分かりやすく記載している。本校は、普通科の高校と商業高校のような職業教育を主とする専門学科の高校、2つの高校の良さを併せ持った総合学科の高校であり、人文科学、自然科学、健康福祉、情報ビジネスの4つの系列を設置している。生徒たちは、いずれかの系列で、自分の将来を考えて学びを深めていく、視野を広げていくということをしている。校内での学びはもちろん、学校を飛び出して行う地域や大学等との連携による学びも充実している。地域の方々を学校に招いて様々なお話をいただいたり、インタビューをしたりすることなども本校の特色ある学びとなっている。

また、地元を盛り上げようと頑張っている方と生徒が交流し、地元の良さも含め、様々なことを考える機会を学校の教育活動の中に据えている。

本校では、探究活動に非常に力を入れており、1年次から探究を深め、3年次では発表を行っている。

ほかにも、外まなび部というものを本校では設定しており、様々なコンクールや講演会などにボランティアとして参加している。特に本校は下北管内の県立学校5校で構成する下北BOUSAIネットワークの活動に特に力を入れている。

○むつ工業高校（野呂副委員長）

学校案内の一番最後のページに記載している沿革のとおり、本校は昭和39年に機械科と電気科で開校している。令和5年には60周年を迎え、今年度で62年目になる工業高校である。この間、様々な学科改編があり、現在は機械科、電気科、設備・エネルギー科の3学科、各学科1クラスずつの編制となっている。

本校の特色ある教育活動としては、地域との連携による交流及び貢献、地域企業や研究機関との連携による共同開発等が挙げられる。日頃の学習で学んだ基礎・基本をベースにしながら、地域との連携の下、ものづくり教育を柱とする探究型の学習の充実を図っているところである。生徒は、これらの教育活動を通し、身近な地域の課題を自分たちで見つけ出し、その課題や様々な困難を主体的に解決できる、そして郷土愛を育む、それから地域を良くしていこうと

いう当事者意識を醸成させることで、地域を支える人財の育成と、実践的な知識や技術を身に付けた地域の産業界に即戦力として貢献できる工業人の育成を目指している。

また、生徒一人一人のキャリア発達や個に応じた自立を促す観点から、社会人、職業人として自立していくために必要な能力や態度を身に付けることができるよう、3年間を見越した系統的なキャリア教育に取り組んでいる。

7 意見交換

(1) 統合校の目指す人財像・学校像について

- 事務局が資料3により、統合校の目指す姿として「幅広い知識や視野を身に付けさせ、生徒の進路志望を実現する高校」、「生徒の個性や能力を伸張させ、豊かな社会の実現に寄与する高校」、「専門的な知識・技術を身に付けさせ、地域産業の発展に貢献する高校」の3点としていること、また、資料8により、下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見を説明した。
- 委員長が下北地区統合校の目指す人財像・学校像としては、昨年度開催した下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見を基本とする旨確認し、委員から了承された。

(2) 校名案の決定方法について

- 事務局が資料9により、想定される決定方法のイメージとしてA案（事前公募方式）及びB案（事後意見照会方式）を提示し、説明した。また、欠席した委員から事前にいただいた意見を、次のとおり説明した。
- 入学する生徒の手助けをしたいという理由から、委員が校名案を出すB案が良い。
- 下北の人に限るのであればA案も考えられるが、現実的には難しいためB案が良い。
- その他の案として、在校生からクラスごとに校名案を出してもらい、又は、A案で公募した後に在校生の意見を踏まえて委員が絞り込むという方法も考えられる。
- 委員長が各委員に対し、校名案の決定方法について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- A案が良い。
- 広く意見を聴取してから、この場で検討すれば良いという理由でA案が良い。
- 前出の理由でA案が良い。

- A案が良い。
- A案では、様々な案が出され収拾がつかなくなるのではないかと。より地元理解がある意見をまとめられるということでB案が良い。
- 委員の方々は過去の歴史や経緯、土地のこともよく分かっているので、思いを含めた校名案が出てくるのではないかとということでB案が良い。
- 委員の方々が周りから聞いた意見を述べて、本委員会で絞り込んでいくほうが良いということでB案が良い。
- B案で良い。
- B案で良い。
- 同窓会やPTAの会長、校長先生それぞれの組織等の意見を拾っていくためには、B案の方が良いのではないかと。
- 地域の学校なので、在校生やこれから入学する中学生も含め、地域の方々に募集し、そこで出てきたものを委員で決めるということでA案が良い。
- 地域のこと、学校の歴史等を知っている委員ばかりであるため、B案が良い。
- 多少B案が多いが、それぞれの立場から意見は何かあるか。
- 先ほど話があったとおり、これから入学するこどもたちも応募できるとなれば、新しい学校をより好きになってもらえるということで、A案でも良い。また、県教育委員会のホームページだけでなく、いろいろな周知方法を検討し公募すれば良い。
- A案が5票、B案が9票、その他が1票ということだが、数だけで決を採るわけにはいかないと思うので、更に意見を伺いたい。
- 各団体の長などが委員となっていることから、その団体の会議などで意見を募集し、それを本委員会に出すというほうが、方法としては順当ではないか。
- 資料9に記載しているホームページ等による公募や意見照会についてももう一度確認したい。
- （事務局）A案では、8月頃にホームページ等を通じて校名案を広く公募することを想定している。B案では、2回目の開設準備委員会前に各委員から1案

ずつ出してもらい、8月頃にその名称と理由をホームページに掲載する。それに対する意見を踏まえて3回目で絞り込むという流れである。

○ 県教育委員会のホームページで公募しつつ、委員から校名案を出してもらうというA案とB案をミックスした形（C案）はどうか。

○ 意見を聞く範囲が広いほど、校名案も多岐にわたるという可能性がある。ここで挙手により、一番多い方法を基本にして進めるということかどうか。

■ 委員から了承を得た上で委員の意見を再度確認

＜A案：1人、B案：6人、C案：5人＞

○ 事務局としては、A案とB案をミックスした方法（C案）でということは想定できるか。

→（事務局）どちらかに決めてもらいたい。

■ 委員長から校名案の検討については、各団体から挙げてもらうなどできるだけ広い範囲の意見を集約させることも含め、B案で進めることとして良いか委員に伺い、了承された。

（3）制服の方向性について

■ 事務局が資料10により制服の方向性に係る論点等について説明した。また、欠席した委員から事前にいただいた意見を、次のとおり説明した。

○ こどもや地域など様々な方の声を聞きながら新たに制服を制定してほしい。

○ 他地区の生徒にも入学してもらえるような、着てみたいと思えるような新たな制服を作してほしい。

○ 新たに制服を作った方がよい。保護者の意見も重視してほしい。

■ 委員長が各委員に対し、制服の方向性について意見を求めたところ、委員から次のような意見があった。

○ 制服の価格も大事な論点だと思う。

○ 女子生徒のスラックスも選択肢としてあった方がよい。

○ 制服を制定しない場合には、私服とするということも考えられるがどうか。

○ 私服もよい。

○ 親としては私服は大変。

○ 現在、青森県内で制服を制定していない学校はあるのか。

→（事務局）全日制課程ではない。弘前南高校では、制服を着ない期間を設けることを試験的に導入したことがあった。華美な服装となる懸念もあったが、実際には学校や部活動のジャージを着る生徒が多かったとのこと。ルールとして制服をなくしたということはない。

○ 保護者の経済的な負担等を考慮して、制服はやはりあったほうが良いと考える。現在、両校において、生徒から私服への強い希望や動きがあるものか。

○ 大湊高校の場合、特に制服を廃し、私服へという動きはない。私自身の意見としても、普段の生活等を考えたときに、制服はあったほうが良いと思う。

○ 三本木農業恵拓高校や五所川原工科高校ではどのように制定したのか。

→（事務局）いずれも新たに制服を制定した。まず、制服をどうするかといった方向性を準備委員会で決めた上で、統合対象校の教頭、生徒指導の先生、家庭科の先生などでワーキンググループを作り、検討していくというのが一般的な流れ。

○ 今回も、例えば各校から代表を集めて話し合いをする組織を作り、そこでベースとなる部分を作りながら、本委員会で報告しつつ進めるという流れはどうか。

○ 資料10には、8月に中学生を含む生徒からも参考として意見を聞くということが記載されている。今の段階で制服を作ることを前提として、その企画を業者に依頼することだけ決めれば良いような気もするが、それでは駄目なのか。新規に制定するなどの方向性は決めなければならないのか。

→（事務局）例えば、従来の生地を使うというのであればスケジュールはより余裕があるものと考えられるが、新しく作るのか、既存のものにするのか、作らないのかという方向性は決めてほしい。

○ 結局はデザインを新たにする場合でも、引き継ぐ場合でも、例えば校章が新しくなれば、多少のデザインの違いは出てくると思う。よって、新たなデザインとするという方向性で良いのではないか。その中で、多少のデザインの引き継ぎということも検討すれば良い。

○ その意見に賛成。新しい学校になることを印象づけるためにも、新たなデザインにする方が良いのではないか。ただ、両校の伝統もあるので、それが引き継がれるような何かがあればと思う。ワーキンググループの中で話をして両校の伝統を尊重していければ良いと思う。

■ 委員長が、新たな制服を制定する方向で、両校の教職員等によるワーキンググループによって、業者の選定、デザイン等の検討を進めること、デザイン等の検討など当たっては、可能な限りこどもたちの意見を取り入れるように工夫すること、その途中経過等を本委員会で報告をすることについて確認し、委員から了承を得た。

■ 委員長がオブザーバーに対し、第2回委員会の開催に向けて、各校の教育活動などの資料作成に協力を求めた。

8 閉会

■ 司会から、第2回委員会の資料とするため、各委員に対し校名案を文書で照会することを説明した。

9 むつ工業高校施設見学